

# 羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL.44

令和 3年 2月 6日

発行：安全委員会課 小野・三上・川本

\*安全委員会開設10周年記念号\*

新しい生活の中で迎えた10年目の節目

羊ヶ丘養護園安全委員会委員長 澤 聡一

羊ヶ丘養護園の安全委員会が10周年の節目の年を迎えましたことを、心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、記念集会の当日には私はビデオレターで「参加」させて頂きました。他にも今までにない様々な工夫と配慮がこらされたことと思いますが、こうした過去に例を見ない状況の中でさえ安全委員会の火を灯し続けたことに、とても大きな意味があると感じます。

新型コロナウイルスの影響で、多くの行事や活動が中止や延期になりました。私が勤務する大学でも、講義がYouTubeやビデオ会議などで行われるようになり、外に出かける仕事が激減しています。「不要不急の外出は控えるように」という言葉をよく聞きますが、逆に考えれば安全委員会は不要不急ではない「必要緊急」のことといえます。オリンピックでさえどうなるかわからない非常時ですが、そういう時期に羊ヶ丘養護園と関係の皆様力を結集して、安全委員会が止まらないで有り続けることが何より素晴らしいことと感じました。

ウイルスが広まり、外に出られない／会いたい人と会えない／先の予定が立てられないという状況は、とても大きなストレスです。それが怒りや暴力などにつながることも少なくありません。その一方で、羊ヶ丘養護園で生活する皆さんにとっては、ユニットで一緒に生活する皆さんや職員の先生方と今までよりゆっくと話せた、ということもあつたのではないのでしょうか。

オルポートという心理学者は、世の中に蔓延する差別や偏見を減らしていくためには、相手と関わる機会を増やすべきだ、とする接触仮説を提唱しました。しかし、ただ関わる機会を増やすだけでは十分ではなく、その前提として、相手のことを知ろうとすることや、共通の目標に向けて協力する体験なども大切、とされています。つまり、新型コロナウイルスでストレスが溜まっていく中でも、暴力をなくし安全な生活を送っていくためには、起こった出来事について話し合い振り返る機会であると同時に、守るべき共通の目標として安全委員会がそこに有り続けることが必要なのだと思います。

続けることが大変なときにこそ、その真価が問われます。それぞれができることに取り組みながら、これからも安全委員会がある羊ヶ丘養護園での新しい生活を大切にしていきたいです。11年目も、どうぞよろしくお願ひします。

## ～10周年記念集会の様子～

令和2年12月9日火曜日、安全委員会10周年記念集会が行われました。新型コロナウイルス感染症の対策の為、委員の先生方は動画で参加し、各ユニットの座る場所は間隔を開けての開催でした。例年よりも短い時間の中での集会でしたが、澤委員長をはじめとした外部の先生方の養護園の皆さんへの応援メッセージや、児童代表のAさん、職員代表の秋山先生の決意表明に耳を傾け、真剣に聴く姿が見られました。



安全委員会が養護園に導入されてから10年…「原点に戻って考え直すこと、みんなで楽しい生活を作って行こう」という意味を込めて、10周年のテーマは「みんなでつくろう 安心・安全な生活 暴力をしない・させない羊ヶ丘」となりました。内山先生が考案のケーキのイラストに、各ユニットでケーキの苺を描き素敵なポスターとなりました！今回のポスターはこのイチゴの部分（各ユニットの目標）が大事です。みんなでこの目標を守っていきましょう！！